

南海電鉄等による戦前期の橋本関連資料について(2)

About the Hasimoto-related data of the pre-world war 2 period by the Nankai electric railway and the like part2.

平山育男

HIRAYAMA Ikuo

The data of the pre-world war 2 period by the Nankai electric railway and the like was procured. With this manuscript decision of these issue ages it did. The data being free, is the pamphlets which are distributed, but from only these there is also a fact which cannot know, future application is expected.

Keywords:パンフレット

Pamphlet

1 はじめに

筆者らは平成11(1999)年以来、和歌山県橋本市橋本駅前の中心市街地における町と町家の調査研究を行って来た¹⁾。その一環として戦前期、南海電鉄等の発行による橋本関連のパンフレット類を入手したが、発行年代が明らかでないものが目立った。そこで本稿では資料の概要を紹介して発行年代等を明らかにする第2報とする。

2 資料とその発行年代

以下では発行年代不明の15種類の資料について、体裁、内容を述べた上で、発行年代の考察を加える。なお、論述の順序は考察より判明した発行年代順とする。なお、資料では表紙の印刷される側を表面とした。

1) 高野山参詣案内 / 南海鉄道株式会社運輸課乗客掛 / 昭和2(1927)年

[体裁] 縦272mm × 横469mmを上下2段に折り、更に縦に六つ折り。表面は茶、青の2色刷、裏面は黒、緑の2色刷。

[内容] 表面は右半分が「高野登山実測地図」。左半分は上下段組3列として上段右から1列目より「高野山案内」、2、3列目が表紙で鐘楼を描き、3列目左上に2行で「高野山参詣案内」と縦書、2列目右下に「大阪市南区難波 / 南海鉄道株式会社 / 運輸課乗客掛 / 電話戒四一ヨリ四八マデ」とし、下段は高野山案内の続き。裏面は「高野山上精図」とする。

[発行年代] 「高野山案内」の「金堂」の項目に「昨年十二月二十六日祝融子の見舞う所となり」とあるが、これは昭和元(1926)年の金堂火災を記すものであることから、翌昭和2(1927)年の製作とすることができる。

2) 泉州淡輪へ!! / 南海電車 / 昭和5(1930)年頃

[体裁] 縦192mm × 横266mmを縦に四つ折り。表面は黒、朱、緑、紫の4色刷、裏面は朱、青の2色刷。

[内容] 表面は左から1、2列目が表紙で淡輪のつづじ山と紀伊水道が背景に描かれ、1列目を封書の表、2列目を裏に模す。1列目左上に消印に真似た「特急電車 / 一部停車」の文字が右書、中央に「山と海との美に / 抱擁されし / 泉州淡輪へ!! / 御家族様お揃ひで / 春の名残の一日をぜひ.....」と縦書される。2列目は上部に封書裏の封印のメがあり、中央に「山で美し五色のつづじ / 海に釣舟貝ひろひ / なんかいでんしゃより」と縦書され、右上から1列目下にかけて、京都から京阪電車、大阪市電、南海電車による淡輪までの経路が示される。3、4列目は縦書で、右端に「南海新名所淡輪大つづじ山御案内」と題し説明と「模擬店」「釣船」「御宴会は」「淡輪洲本連絡船」「電車」「御照会は!!」の項目がある。

裏面は全面1段組で、背景に淡輪のツツジ園と紀州水道が描かれ、中央に写真が配される。そして上部に「紅紫撩乱数万株!! / 南海新名所淡輪大つづじ山 / 民衆の絶好の園遊会場・模擬店の設備あり」と右書され、右側に「夜間電飾」、左側に「魚つり。貝拾ひ」と縦書される。

[発行年代] 表面「電車」欄に記される難波 - 淡輪間の片道運賃80銭は、昭和5(1930)年製作のパンフレットに記されるものと同じ値段であることから、その当時のものと考えられる。

3) 紅葉狩 みかん狩 温泉めぐり / 南海電車 / 昭和5(1930)年後半

[体裁] 縦130mm × 横386mmを縦に五つ折り。表は茶色、裏面は青色の1色刷。印刷は中安製版LT式グラビヤ印刷による。

[内容] 表面5列のうち左から2列が表紙で「牛滝山野の紅葉」と題する写真で左端1列に題名3行「紅葉狩 / みかん狩 / 温泉めぐり」が縦書、下部に「南海電車」の文字が右書で白抜きされる。残りの右側3列は上段が裏面「紅葉狩」の続きで天野山以下3ヶ所の説明と写真。下段は「温泉めぐり」で大浜温泉以下3ヶ所の説明と写真。

裏面は「蜜柑狩と紅葉狩」として以下「蜜柑山規定」「紅葉狩」で高野山以下7ヶ所の説明と写真。

[発行年代] 裏面「高野山」説明の項目に「難波より高野山迄往復四円八二銭、片道二時間半ケーブル開通し楽に日帰りができます。」との記載がある。これはケーブルの開通した昭和5(1930)年のパンフに多く見られる言葉であることから、同年秋の製作と考えるのが妥当である。

4) 魚釣綱引 / 南海電車 / 昭和5(1930)年夏

[体裁] 縦155mm × 横350mmを縦に四つ折り。表面は、青、水色、朱色、写真は茶色の4色刷。裏面は黒、朱色の2色刷。

[内容] 表面は両脇1 / 4に写真3枚づつ。左から2列目が表紙で釣舟3艘と魚、イカの絵で、右上に2行に朱色で「魚釣 / 綱引」、右下に白抜きで「南海電鉄」の文字。左から3列目に「御団体幹事様へ」「御問合せは」と「南海沿線案内略図」。

裏面は右から「魚つり電車時刻表」「魚つり」「綱引」の各表。**[発行年代]** 以後にも共通するが、資料に記される現南海高野線、現JR紀勢本線の敷設状態が、発行年代の考察に有効である²⁾。当資料では先ず「南海沿線案内略図」に見られる現高野線が極楽橋、ケーブルが高野山まで開通しているのが昭和5(1930)年6月29日の開通以後の製作となる。一方、紀勢本線は御坊までの開通に留まるため、昭和4(1929)年4月21日の開通以後。なお、御坊以南への延伸は昭和5(1930)年12月14日のため、全体としては昭和5(1930)年6月29日～同年12月14日の製作に限定されるが、内容から考えて同年夏の発行と判断するのが妥当であろう。

5) 春の南海 / 南海電車 / 昭和6(1931)年春

【**体裁**】縦155mm×横532mmを縦に六つ折り。表面は紫、朱、桃色、黄色、黄緑の5色刷。裏面は紫、朱の2色刷。

【**内容**】表面6列の内、右から裏面の続きで1列目が写真3枚、2列目が「ピクニック」の続き、3列目が写真、4列目が「宴会場」、5列目が「御団体幹事様へ」と「御問合せは」と「南海沿線案内略図」を掲載する。そして6列目が表紙で、桜花に着物姿の婦人二名が描かれ、上部に「春の南海」、左下に「南海電車」と紫色で右書される。

裏面は右から1列目が住吉神社以下の写真3枚、2列目に「運動会」、3列目に高野山以下の写真3枚と、5列目まで「ピクニック」の解説で、往復運賃ごとの区分けがなされ、6列目が写真3枚となる。

【**発行年代**】南海沿線案内図に見られる紀勢本線が印南まで開通しているため、同駅開通が昭和5（1930）年12月14日、以南の延伸が翌年9月21日である。表紙にある「南海の春」の標記を考慮すると、昭和6（1931）年春の製作と考えるのが妥当。

6）花 / 南海電車 / 昭和6（1931）年前半

【**体裁**】縦157mm×横363mmを縦に四つ折り。表面は青、桃色、黄色、黒の4色刷、裏面は黒、朱色の2色刷。

【**内容**】表面は左右1列に写真3枚を縦に配する。右から2列目が「桃の名所」「摘草」「御問合せは」として、「南海沿線案内略図」を配する。3列目が表紙で、桜花に3人の人物を描き、左上2基の提灯を描く。そして右上の提灯に「花」、左下に「南海 / 電車」と黒色で描く。

裏面は右から1列目に「春の南海沿線遊覧ごよみ」、2列目中央から「桜の名所」4行目中央から「宴会場」とする。

【**発行年代**】「南海沿線案内略図」における紀勢線の開通が印南に留まる。印南開通は昭和6（1931）年9月12日、以南への延伸が翌年11月8日である。題名を「花」として、「春の南海沿線遊覧ごよみ」が3月からはじまることを考慮すると、昭和7（1932）年当初の製作とするのが妥当である。

7）南紀楽園白浜湯崎温泉ゆき / 南海電車 / 昭和6（1931）年前半

【**体裁**】縦154mm×横177mmを縦に二つ折り。表面は青、黄色、緑、朱色の4色刷、裏面は青、朱色の2色刷。

【**内容**】表面は左1列が表紙で、浜辺と海に浮かぶヨットを描き、右上から「南紀楽園 / 白浜湯崎温泉ゆき」「大割引 / 難波より往復 / 六円四十銭」、中段に「宿泊券付 / 大割引券 / 発売」と縦書きし、「白浜湯崎温泉ゆき」「大割引」「六円四十銭」を朱書、その他を青色の文字とし、下段に「南海電車」と朱色で右書。2列目が上段右に枠を設け内部に「白浜・湯崎温泉迄（片道約四時間）楽に日帰り出来ます」として、左側に「電車汽車連絡時刻表」、下段は「白浜・湯崎温泉案内図」とする。

裏面は2列とも上段に写真を配し、右から1列目に「南紀楽園」「順路」「内湯温泉」とし、最後に「湯崎白浜とはどんな所か？」と題する文章を載せる。

【**発行年代**】表面「白浜・湯崎温泉案内図」に“印南 南部間九月二十一日開通”とある。南部までは昭和6（1931）年に開通しているためこれを指すものであろう。但し、正確な開通日は同年9月12日であるため、ここでは実際の開通前予定日を掲載したと考えれば、同年前半の製作と考えるのが妥当であろう。

8）小島住吉加太めぐり / 南海電車 / 昭和6（1931）年前半

【**体裁**】縦155mm×横174mmを縦に二つ折り。表面は朱、水色、緑、黄色の4色刷、裏面は黒、朱の2色刷。

【**内容**】表面は左から1列目が表紙で加太の風景を描く左上に

「小島住吉 / 加太めぐり」と2行で縦書、右下に「南海電車」と縦書、2列目は「小島住吉・加太附近案内略図」。

裏面は右から1段目に「小島、住吉加太めぐり」として深日の浦以下の11ヶ所の説明がある。

【**発行年代**】「小島住吉・加太附近案内略図」の紀勢線に“至印南”とあることから、紀勢線は印南まで開通していたものと考えられる。印南までは昭和5（1930）年12月の開通で、以南への延伸は翌年9月である。裏面には「小島、住吉加太めぐり」下に“四月十日より六月末日迄”とあることから昭和6（1931）年前半の製作と考えられる。

9）天下の霊場高野山 / 南海電車 / 昭和6（1931）年後半

【**体裁**】縦154mm×横353mmの四つ折り。表面は朱、黄緑、ピンク、青の4色刷。裏面は黒、朱の2色刷。

【**内容**】表面両脇1 / 4が写真で各5枚のモノクロ写真を配し、左から2列目が表紙で、高野山の堂宇と森を描き、左上に「天下の霊場 / 高野山」と縦書、下部に「南海電車」と右書。3列目に「運賃」「距離」「時刻」と「南海沿線案内略図」。裏面が上段が「高野山について」以下の説明文。下段が「高野山御参詣案内図」。【**発行年代**】「南海沿線案内略図」で紀勢線は御坊までの開通に留まる。御坊開通は昭和4（1929）年4月。以南への延伸は翌年12月。「運賃」の上にも“ケーブル開通 / 高野山へ楽に / 日帰り出来ます”とあるため、ケーブルの開通した昭和5（1930）年後半の製作とすることができる。

10）真恵方は南海電車 / 南海沿線 / 昭和6（1931）年暮

【**体裁**】縦141mm×横452mmを縦に五つ折り。表は黄色、朱色、青、紫、で写真を黒の5色刷。裏面は青、赤の2色刷。

【**内容**】表面右から五つ折の1列が表紙で鳥居と朝日で上部に縦書4行で「宴会 / 初詣 / 初旅 / 初湯」、中央部に「真恵方は / 南海電車」と2行で右書。2列目に「南海沿線案内図」、3列目に「温泉めぐり」、4、5列目に写真5枚。

裏面は右より「宴会」「初旅」「初詣」「雪中登山」の表。

【**発行年代**】「南海沿線案内図」に見られる紀勢本線が印南まで開通しているため、同駅開通が昭和5（1930）年12月14日、以南の延伸が翌年9月21日である。また、裏面「高野山行電車大割引」に「期間 十二月二十九日より昭和六年二月末日迄」とあることから、昭和5（1930）年暮の発行と判断することができる。

11）大阪難波-白浜湯崎温泉 連絡時刻表 / 南海電車 / 昭和6（1931）年

【**体裁**】縦131mm×横380mmを縦に六つ折り。表面は黒、朱、黄色、黄緑の4色刷、裏面は青の1色刷。

【**内容**】表面は右から3列が時刻表で、上段が「南紀方面より和歌山・大阪（上り）」、下段が「大阪より和歌山・南紀方面（下り）」。4列目が「名所案内」、5列目が「南海電車案内図」、6列目が表紙で中央に「南紀案内略図」、上段に「大阪難波-白浜湯崎温泉 連絡時刻表」、下段に「南海電車 / 御問合せ 難波鉄道案内所（戎 四三番 / 四四番） / 和歌山市駅長室（和歌山一〇一番）」と右書される。

裏面は、上下2段に区切られ、上段が「白浜小唄」「新作紀伊の国」「田辺新民謡」と写真2枚。下段が「白良都々逸」「串本節」「恋の道成寺」「日高川清姫節」と写真2枚。

【**発行年代**】表面の「南海電車案内図」によれば、紀勢線の開通が南部に留まる。南部開通は、昭和6（1931）年12月、以南への延伸が昭和7（1932）年11月5日であるため、昭和6（1931）年の製作と推察される。

12) 加太、友ヶ嶋めぐり宴遊券 / 南海電車 / 昭和7 (1932) 年前半

[体裁] 縦154mm × 横352mmを縦に四つ折り。表面は黒、朱、緑、紫、黄色、紫の5色刷、裏面は黒、朱の2色刷。

[内容] 表面は左から1列目が写真2枚。2列目が表紙で加太、友ヶ嶋の風景を背景に描き、上部に「加太、友ヶ嶋めぐり / 宴遊券」、下部に「南海電車」と右書する。3列目が「南海沿線案内略図」で、4列目が「加太・友ヶ嶋附近案内略図」とする。

裏面は「加太、友ヶ嶋めぐり宴遊券」として右から1列目に「順路」、2列目に「扱店」、3列目、4列目が付近の解説となる。

[発行年代] 紀勢線の開通は南部までに留まる。南部開通は、昭和6 (1931) 年12月、以南への延伸が昭和7 (1932) 年11月5日である。一方、裏面に宴遊券は「四月一日より五月十五日迄」とされるため、昭和7 (1932) 年前半の製作と推察することができる。

13) 千早口園遊覧案内 / 南海電車 / 昭和7 (1932) 年前期

[体裁] 縦156mm × 横174mmを縦に二つ折り。表面は黒、朱、抹茶色の3色刷、裏面は黒、朱の2色刷。

[内容] 表面は左から1列目が表紙で、横2 × 縦3の6マスに分割して右上に「千早口園 / 遊覧案内」と縦書きして、右中段が「春」でツツジとゼンマイ、右下段が「夏」で木立、左上段が「秋」で栗、左中段が「冬」で兎狩、左下段に「南海電車」と縦書きする。2列目は「栗ひろい千早口園案内図」とする。

裏面は上段に各列2枚づつの写真を配し、下段に「高野沿線第一のバラダイス千早口園！」として、以下に「わらび狩」「ほととぎす、水鶏、うぐいす、かじか」「キャンプ」「栗拾い」「松茸狩」「兎狩」の時期等が記される。

[発行年代] 「千早口園案内図」によると南海高野線が「至高野下」とあり、これは同線が高野下へ延伸された大正14 (1925) 年7月30日以後のこととなる。一方、同線では昭和7 (1932) 年4月、極楽橋までの直通運転を行っており、以後はこの表記は用いられない。一方、問合せ先は、裏面左端に「大阪難波 南海電車難波案内所 / (電話戎四三番・四四番)」とされる。今回、昨年来の手持ち資料を、この問合せ先について見返してみた。それをまとめたものが表1となる。表によれば、昭和5 (1930) 年まで問合せ先は運輸課乗客掛であったが、昭和5 (1930) 年夏以後「難波駅鉄道案内所」、昭和6 (1931) 年秋以後「難波鉄道案内所」に組織名称が変更されているようで、電話番号が戎43、44とするのは昭和5 (1930) 年以後であることが分かる。つまり問合せ先から考えると、本資料の製作は昭和6 (1931) 年秋以後と考えるのが妥当である。つまり、以上を総合すると、本資料の作成時期は昭和6 (1931) 年秋～昭和7 (1932) 年4月に限定される。なお、内容としては春のわらび狩に始まるものであるから、これらを加味すると、昭和7 (1932) 年前期の製作とするのが妥当であろう。

14) 春の新和歌裏 / 南海電車 / 昭和7 (1932) 年春

[体裁] 縦155mm × 横353mmを縦に四つ折り。表は黄色、赤、朱色、黒の4色刷。裏面は青、赤の2色刷。

[内容] 表面は四つ折の内、左から1列目が写真3枚。2列目が表紙で新和歌裏の風景の周囲を桜の花びらで囲い上部に右から2行で「春の / 新和歌裏」、下部に「南海電車」と右書される。3列目は「南海沿線案内略図」、4列目は「新和歌裏・紀三井寺・南紀案内図」。

裏面は右より「天下の絶勝新和歌裏ゆき宴遊券」「順路」「附近の名所」の表。

[発行年代] 「南海沿線案内略図」に見られる紀勢本線が南部まで開通しているため、同駅開通が昭和6 (1931) 年9月21日、以

南の延伸が翌年11月8日である。また、裏面に宴遊券の発売期間が3 / 27から5 / 15とあり、表紙に「春の新和歌裏」とあることから、全体として昭和7 (1932) 年春の発行と考えられる。

15) さあ秋だ / 南海電車 / 昭和13 (1938) 年

[体裁] 縦194mm × 横266mmを縦に二つ折り。表面は黒、朱、青、黄の4色刷。裏面は黒、橙色の2色刷。

[内容] 表面は左側が表紙で、リュックを背負って歩く人物と葡萄等が描かれ、上部に「さあ秋だ」と右書、中段に「ハイキング割引」「御食事券付割引券」など9行の説明文を縦書き、下部中央に「御問合せは / 難波鉄道案内所 / 電話戎四一より四八まで」と3行で右書、右下に「南海」と縦書きされる。右側は、朱色で枠が書かれ、その上部に白抜きで「秋の御食事券付割引券 / 九月十五日より十一月末日まで (通用四日間)」と2行で右書、下段に「南海電車」右書きされ、両脇に卍、鳥居などの絵文字が11文字配される。枠内は「天下絶勝新和歌浦」以下、8ヶ所の解説。

裏面は種子形に白抜きで枠が橙色で造られ、周囲に白抜きで葡萄、帽子等が描かれる。文字は見開きで、「清澄の秋、台地を踏んでハイキング割引」として21コース、「長野葡萄狩」「伽羅橋いちゞく狩」の説明がある。

[発行年代] 表紙に「紀勢西線周参見、江住間開通」と記される。紀勢線の周参見 - 江住間の開通は以南への延伸は昭和13 (1938) 年9月7日、以南への延伸は昭和15 (1940) 年8月であるため、昭和13 (1938) 年の製作と考えるのが妥当である。

3 おわりに

前稿では、資料を用いた分析等は次稿以下の課題としたが、これまでに筆者らは、前稿での成果も交え、戦前期における高野山への日帰行、橋本における鮎狩りなどについての考察を行っている³⁾。以後も資料の収集を進めると共に、資料を用いた論考を記して行きたい。

注記

1) 橋本の町と町家の研究会編：橋本の町と町家、2002年3月

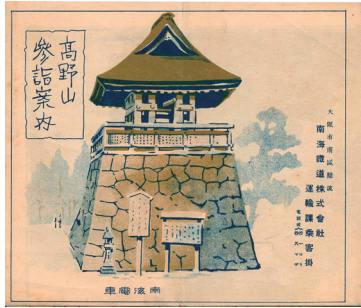
2) 以下の考察には次の資料を用いた。南海電鉄経営企画室編纂：南海七十年の歩み、1957年10月。国鉄旅客局企画編集：日本国有鉄道停車場一覧、1980年9月

3) 拙稿：高野山への日帰行について 和歌山県橋本市中心市街地の町と町家の調査研究その30、平成16年度日本建築学会近畿支部大会、平成16 (2004) .6ほか

表1 バンフレットに見る問合せ先の変遷

資料番号	資料名	製作年代			案内先	電話番号	夜間電話番号
		大正	昭和	平成			
	南海電車秋季御団体わりびき	大正11	1922	秋季	南海鉄道株式会社運輸課乗客掛、難波駅長室	南41～43、南1182,6042	
1	高野山参詣案内	昭和02	1927		南海鉄道株式会社運輸課乗客掛	戎41～46	
	高野山案内	昭和03	1928	10月	南海鉄道株式会社運輸課乗客掛	戎41～48	
●2	南海電車賃金・時刻表	昭和03	1928	秋	南海鉄道株式会社運輸課	戎41～48	
	新年初詣	昭和03	1928	暮	南海鉄道株式会社運輸課乗客掛	戎41～48	
	この春の御団体は	昭和04	1929	春	運輸課乗客掛	戎41～48	夜間難波駅長室41,42,44,46,47
	春の南海沿線御案内	昭和04	1929	春	運輸課乗客掛	戎41～48	夜間難波駅長室41,42,44,46,47
	高野山案内	昭和04	1929	6月	南海鉄道株式会社運輸課乗客掛	戎41～48	
	南海沿線の山と海	昭和04	1929	初夏	南海鉄道株式会社運輸課乗客掛	戎41～48	
●4	楠公遺蹟めぐり	昭和04	1929		南海鉄道難波鉄道案内所	戎41～48	夜間専用戎44
2	泉州淡輪へ!!	昭和05	1930	頃	南海鉄道株式会社運輸課乗客掛	戎41～48	
3	紅葉狩みかん狩温泉めぐり	昭和05	1930	後半	南海電車乗客掛	戎41～49	
4	魚釣綱引	昭和05	1930	夏	難波駅鉄道案内所	戎43、44	
●8	高野山スキー場	昭和05～06	1930～31		難波案内所	戎43、44	
●10	楠公遺蹟めぐり	昭和06	1931	春	難波駅鉄道案内所	戎43、44	
5	春の南海	昭和06	1931	春	難波駅鉄道案内所	戎41～48	夜間専用戎44
6	花	昭和06	1931	前半	難波駅鉄道案内所	戎41～48	夜間専用戎44
7	南紀楽園白浜湯崎温泉ゆき	昭和06	1931	前半	記載無し	記載無し	
8	小島住吉加太めぐり	昭和06	1931	前半	記載無し	記載無し	
●11	秋	昭和06	1931	秋	難波鉄道案内所	戎43,44	
9	天下の霊場高野山	昭和06	1931	後半	記載無し	記載無し	
10	真恵方は南海沿線	昭和06	1931	暮	記載無し	記載無し	
11	大阪難波～白浜湯崎温泉連絡時刻表	昭和06	1931		難波鉄道案内所	戎43,44	
●12	春の南海	昭和07	1932	春	難波鉄道案内所	戎43,44	
12	加太、友ヶ嶋めぐり宴遊券	昭和07	1932	前半	難波鉄道案内所	戎43,44	
13	千早口遊覧案内	昭和07	1932		難波鉄道案内所	戎43,44	
●13	南海電車附高野山電車旅客運賃表	昭和07	1932		難波案内所	戎43,44	凡例
●14	紀三井寺新和歌浦	昭和07	1932		難波鉄道案内所	戎43,44	番号欄：●は前稿の資料を示す
●15	小嶋住吉?加太巡り加太宴遊券	昭和07	1932		難波案内所	戎43,44	網掛けは年代の判明する資料
14	春の新和歌浦	昭和07	1932		難波鉄道案内所	戎43～48	
●19	天下之霊場高野山	昭和08	1933		南海電車難波案内所（経営掛編）	戎43,44	
	南海電車沿線案内図	昭和08	1933	8月	南海電車難波案内所（経営掛編）	戎43,44	
	冬の高野山	昭和09	1934		難波鉄道案内所	戎43,44	
	淡輪つゝじ	昭和09	1934	春	難波鉄道案内所	戎43,44	
	天下の霊場高野山	昭和09	1934		難波鉄道案内所	戎43,44	
15	さあ秋だ	昭和13	1938		難波鉄道案内所	戎41～48	

凡例：番号欄●印は昨年度報告の資料。アミ掛けは年代の明らかな資料



1) 高野山参詣案内
昭和2 (1927) 年



2) 泉州淡輪へ!!
昭和5 (1930) 年頃



3) 紅葉狩 みかん狩
温泉めぐり
昭和5 (1930) 年後半



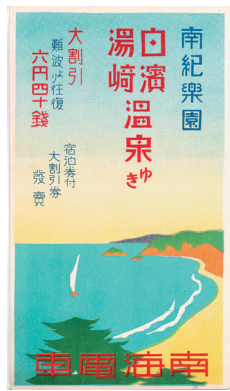
4) 魚釣網引
昭和5 (1930) 年夏



5) 春の南海
昭和6 (1931) 年春



6) 花
昭和6 (1931) 年前半



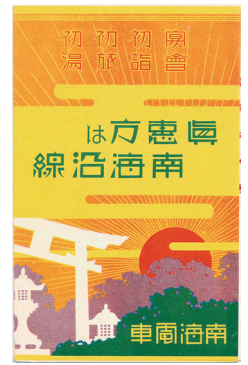
7) 南紀楽園白浜湯崎
温泉ゆき
昭和6 (1931) 年前半



8) 小島住吉加太めぐり
昭和6 (1931) 年前半



9) 天下の霊場高野山
昭和6 (1931) 年後半



10) 真恵方は南海沿線
昭和6 (1931) 年暮



11) 大阪難波 - 白浜湯
崎温泉 連絡時刻表
昭和6 (1931) 年



12) 加太、友ヶ嶋めぐり
宴遊券
昭和7 (1932) 年前半



13) 千早口園遊覧案内
昭和7 (1932) 年前期



14) 春の新和歌浦
昭和7 (1932) 年春



15) さあ秋だ
昭和13 (1938) 年

図1 資料表紙 縮尺1/3